令和４年度 多面的機能支払交付金 傾斜地対応草刈り機実演会を開催

令和４年１２月２０日（火）「令和４年度　多面的機能支払交付金　傾斜地対応草刈り機実演会」を開催しました。

この実演会は昨年度から実施しておりますが、今回は宮崎市大字有田にあるため池「天神出池（てんじんでいけ）」において開催しました。

実演会では、まず活動時における作業全般の安全管理について、県内で今年度に発生した事故事例説明や草刈り必携マニュアルの紹介を行い、安全対策の徹底を呼びかけました。

傾斜地対応草刈機　実演会の様子

草刈り機械の実演では、ラジコン式草刈り機及び搭乗式草刈り機の紹介を行い、各機械が稼働する様子を参加者に見てもらいながら、その作業性能を確認していただきました。

また、ラジコン式草刈り機については、参加者に操作を体験してもらいました。

令和４年度 多面的機能支払交付金　水路補修等技術現地講習会を開催

令和５年２月６日（月）「令和４年度　多面的機能支払交付金　水路補修等技術現地講習会」を開催しました。

本講習会は水路の簡易補修に関する知識や技術を習得することを目的に開催しております。

今年度は、宮崎市大字熊野にある農業用水路において、補修方法の実演を行う予定でしたが、当日はあいにくの雨天となったため、木花地域センターの体育館内で補修方法の説明を行いました。

補修材料の紹介

水路補修　作業方法の説明状況

水路の目地補修で採用される一般的な工法の中から、数種類の補修材料について各材料の特徴や作業手順等を資料により説明した後、作業で使用する器具や各補修材料について実物を紹介しながら、補修方法の理解を深めてもらいました。

多面的機能支払ネットワーク通信

発　行　宮崎県多面的機能推進協議会
（宮崎県土地改良事業団体連合会内）
TEL 0985-24-3361　FAX 0985-29-9107
HP http://nouchimizu-kyougikai.com/

2023.3　March

目　次

1. 表紙（シバザクラの広がる幻想的な風景）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 活動組織の現場から（組織代表へのインタビュー）・・・・・・・・・・・・・・・・（見開き）2
3. 各種研修会の開催報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

景観形成活動～シバザクラの広がる幻想的な風景～（宮崎市高岡町：一里山地区ふるさとづくり推進協議会）

一里山地区ふるさとづくり推進協議会（宮崎市高岡町）では、景観形成活動としてシバザクラの植栽を行っています。色鮮やかな花が地面を覆う光景はとても印象的で、地域外からも毎年多くの人々が訪れています。

３月下旬～４月中旬が見頃です。（掲載の写真は過去に撮影されたものです）

写真大募集！　活動組織の写真で多面的機能支払ネットワーク通信の表紙を飾ってみませんか？
ご提供頂ける方は、ぜひ上記にあります宮崎県多面的機能推進協議会までご連絡を！

活動組織の現場から

組織代表へのインタビュー

農業農村を取り巻く環境は、高齢化や担い手の減少など様々な問題があり、多面的機能支払交付金の活動においても例外ではなく、活動に参加する人員の減少や役員の担い手不足などの問題を抱えている組織は多い。

人材確保や作業負担軽減のためには、組織の広域化や土地改良区との連携、営農組織との連携などの取組を進めることが重要であるが、実際にどのような取組がされているだろうか。

本交付金の活動に営農組織が参加している事例について話を伺うため、今回、都城市の活動組織「金田農地管理活動組織」の代表である中村会長のもとを訪れた。

この組織の活動には、農事組合法人の「きっとかな田」が参加し、中村氏は当法人の代表でもある。

保全管理活動における、法人の関わりなどを話していただいた。

（聞き手　宮崎県多面的機能推進協議会事務局）

Q1「金田農地管理活動組織」の設立の背景について教えてください。

当組織は、下金田という集落を中心としたエリアで活動を行っていますが、隣の上金田という集落では以前より「がぐれの会」という組織が活動を行っていました。

その後、下金田を含めた地域においても本交付金を活用した取組をしていこうという話になり、「金田農地管理活動組織」を設立しました。当時私は農事組合法人「きっとかな田」の代表に就任しており、活動開始時点から法人として参加をしています。

Q2 農事組合法人「きっとかな田」の代表もされていますが、この法人はどのような背景から設立されたのでしょうか。

この法人は平成19年に設立しましたが、それ以前よりこの地域では、農家人口が減少する中で、地域の農地を守っていこうという主旨で、「農事振興会」という組織を立ち上げておりました。

この振興会の各支部長が理事となって、農事組合法人「きっとかな田」を設立するに至りました。代表は私で三代目です。

組織概要

「金田農地管理活動組織」
（多面的機能支払交付金　活動組織）
・平成26年設立
・認定農用地面積：約108ha

「きっとかな田」（農事組合法人）
・平成19年設立
・作付品目：水稲、馬鈴薯、大豆、甘藷、ホウレン草など

交付金の活用による負担軽減

Q3 本交付金に取り組んで良かった点があれば教えてください。また、営農法人としての活動への関わりはどういったものか教えてください。

法人では、地域の約8割の農地を耕作しており、交付金に取り組む前は、農地周りの草刈り作業に要する費用は法人の負担でした。

現在は、草刈り作業に要する費用は交付金を活用し、法人の負担を軽減することができています。

組織力を活かした人員の確保

また、当法人には38名の従業員がいますが、この中で役割を分担して草刈り作業を行っています。

組織的に作業を行うため、個人一人一人に作業負担が集中しないよう調整ができることは組織としての強みであると感じています。

さらに、法人が所有する大型の草刈り機械を活用することで、作業の効率化を図っています。

自分たちの農地は、自分たちで守る

Q4 組織の代表として心がけていることはありますか。

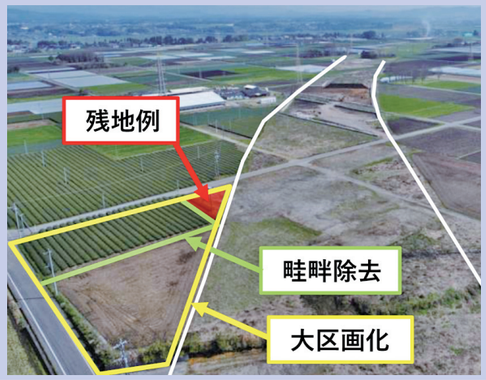
代表という立場に関わらず、農地を持つ者にとっては、受け継いだ農地をできる限り残したいという気持ちが強くあります。

市内を起点に整備が進められている高規格道路（都城志布志道路）事業が立ち上がった際に、地域の農地も用地買収が行われたのですが、買収後に小区画の農地が残るケースが幾つもあり、このような農地で耕作を続けることは難しいと考えていました。

しかし、耕作を続けて欲しいという地権者の思いもあり、何とか農地を残す方法はないか検討を行い、農地耕作条件改善事業を活用し、畦畔除去や客土によるほ場の大区画化を図りました。

これにより、農作業の効率性も確保され、耕作を続けることが可能となりました。

ほ場の整備を行うにあたり、事業申請の手続や客土の確保、整地後の石礫除去など、苦労は絶えないですが、自分達の農地は自分達で守っていくしかないという気持ちでこれまで取り組んできました。



高規格道路整備に伴う用地買収により、小区画となった農地について、他事業を活用し、畦畔除去や客土による均平化を行うことで大区画化を図った。

ほ場整備の重要性

Q5 今後の展望を教えてください。

当法人が耕作している農地には、未整備のほ場が幾つかありますが、将来にわたって耕作を続けていくためには、区画の整ったほ場を整備し、農作業の効率化を図ることが重要です。そのためにはほ場整備を進めていく必要があり、まとまった区画の農地が確保できれば、スマート農業といった展開も進めやすくなると考えています。

金田農地管理活動組織の中村会長。
多くの質問にも一つ一つ丁寧に説明していただいた。